

第1回 長浜市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成29年6月28日（水曜日）13時55分～16時15分

II 場 所 滋賀文教短期大学 翠湖館 あすなるホール（長浜市田村町335番地）

III 出席者

【構 成 員】 藤井勇治市長、北川貢造教育長、井関真弓教育委員
西橋義仁教育委員、川口直教育委員、七里源正教育委員
西前智子教育委員

【滋賀文教短期大学】

松本博文学長、松本秀章副学長兼子ども学科長、
前田康一国文学科長、大橋英子子ども学科教授、
藤井美津子子ども学科准教授、堀要事務局長兼総務課長、
三浦健学務課長、飯沼仁敏入試キャリア課長

【オブザーバー】 大塚義之副市長

【事 務 局】 改田教育部長、清水教育指導課長、宮川すこやか教育推進課長、
堀幼児課長、土田教育改革推進室長、今井教育総務課長代理
北川総合政策部長、米田総合政策部次長兼総合政策課長
野村総合政策課長代理 ほか担当職員（2名）

【議事進行】 北川総合政策部長

【傍 聴 者】 なし

【報道機関】 なし

IV 内 容

1 開 会

2 市長あいさつ

（要旨）

- ・委員の皆さま方には、日ごろから子どもたちの教育の充実と発展、そして健全育成のために大変なご尽力を賜っておりますこと、心から感謝申しあげる。
- ・また本日は滋賀文教短期大学の皆さま方には大変ご多忙の折にも関わらず、総合教育会議の開催にご協力を賜り心からお礼を申しあげる。
- ・総合教育会議という制度は、政府の方針で、今までは教育委員会が全て担うという形であった教育行政について、首長もしっかりと責任を担うべきであるという趣旨から設けられるようになった。

- ・長浜市としても教育をしっかりと充実させる、福祉をしっかりと充実させるということは政策の大きな柱にしている。
- ・教育を充実させるということは、今の子ども達にしっかりと教育を身につけて次の世代を担って欲しいという思いに尽きる。長浜の学校で学んだ子ども達は、将来世界のどこに行ってもしっかりと見識を持って人からも信頼されるすばらしい人材になってほしいということから、長浜市では教育の充実に力を入れている。
- ・長浜市で400年継承され保存されてきた長浜曳山祭が、昨年の12月にユネスコの無形文化遺産として認められ、私達の暮らすこの地域に世界が認めた祭りがあるということをぜひ市民の誇りにし、滋賀県で唯一のユネスコ登録の無形文化遺産として、滋賀の宝としていこうと申しあげている。
- ・長浜曳山祭り以外にも我々の地域には、450を超える国や県、市指定の文化財がある。ひとつの自治体にこれだけ文化財がひしめいているのも長浜市の特長である。私は全国の皆さまに歴史の重みと文化の香りは日本一であるとPRさせていただいているが、今回長浜曳山祭りがユネスコに登録されたことはまさにその証であって、これからの地方創生にうまく結び付けていきたい。
- ・7月9日に東京国立劇場において長浜曳山祭り子ども歌舞伎を披露することになった。日本中、世界中に発信していくという場で長浜の子ども達が活躍し、この中に長浜の光り輝く未来があるものだと考えている。
- ・長浜の子ども達を地域で守り、支え、しっかりと育てていくことは、今日を生きる我々大人たちの責任であり、行政としても力を入れて取り組んでいかなければいけないものと感じている。
- ・そのためには全ての子ども達が安心して、自分らしく生き生きと学校生活を送れる環境づくりが必要であり、幼児期と児童期のつなぎをスムーズにすること、その中で一人ひとりの子どもの「生きる力」を学校や地域、行政が一体となって育てていく必要があると感じている。
- ・今年度の長浜市総合教育会議では、「就学前および初等教育における学校や地域の取組について」をテーマとし、今回は、滋賀文教短期大学の先生方のご協力のもと、「就学前教育にかかわる人材育成の取組」について、活発な意見交換ができればと思っている。
- ・現在の社会情勢や子育てに対する意識の変化等によって、保育に対するニーズが相当多様化しており、全ての子どもに状況に応じた教育・保育を提供するための取組が必要であると考えている。そのためには、保育士、幼稚園教諭をはじめとする保育や教育に関わっていただく方々が必要となるが、現在は、この分野において、人材不足が大きな課題となっている。
- ・このような現状の課題においても行政のみならず、地域、大学等と連携をはかりながらの課題解決に取り組み、一体となって子ども達の健やかな成長の支えとなっていければと思っている。

- ・ 私は常々、「教育は国の礎であり、国家百年の大計である。」と申しあげており、この実現のために本日の会議においても、長浜の未来を担う子ども達のために自由闊達な議論が交わされ、より良き教育の方向性が見出すことができるよう心から期待して、私からの挨拶とさせていただきます。

3 滋賀文教短期大学 学長あいさつ

(要旨)

- ・ 本日は平成 29 年度第 1 回目の総合教育会議を本学で開催していただき、委員の皆様にお越しいただき、本学を視察いただいたこと、歓迎申しあげる。平素は本学の教育、運営に格別の高配をいただき心よりお礼申しあげる。
- ・ 特に、市長においては、本学の色々な諸行事などで本学を訪問いただいた際には、学生に激励の言葉をかけていただき、学生と直接触れ合っていた中で直接ご指導いただいております、大変感謝申しあげる。
- ・ また教育長においては私共の学園の理事として指導いただいている。本学は滋賀文教短期大学の他にも、岐阜県に高校を 2 つ設置しているわけだが、大学の運営、市との連携について貴重な意見をいただき、学園全体の運営に対しても大変力強く思っている。
- ・ 近年私立の大学、短期大学においては、総合的に大学・短大内部の改善をするようにと文科省からの指導がある。本学においては平成 27 年度に地域の特色、地域の発展を地域と共に支えながら大学を構築していくという地域発展をテーマにして取組を行うこととした。
- ・ この取組については、地域社会に大学がいかに関与するかということと、社会人の受け入れに対して努力すること、大学のノウハウを地域社会に生かしていく、いわゆる生涯学習などを含め大学改革に取り組む大学には補助金を交付するという事になっている。
- ・ その中で、一番重要視されているのが、自治体との包括連携協定の締結であり、本学では、平成 27 年 8 月に長浜市と包括連携協定を結ばせていただき、この地域自治体との連携と子育て、子ども教育に関する取組が評価され補助事業として採択され、実習施設（翠湖館）建設において国から補助金をいただいた。
- ・ このような背景から、本学が取り組んでいこうとする観点と、総合教育会議の中で議論を進めようとしている就学前教育の人材確保の取組などは、まさしく一致していると感じている。このような機会を通じ、双方が地域社会の教育の発展のために尽力できることを強く願っている。
- ・ 短期大学は 7 年に一度第三者評価を受けないといけないが、平成 28 年度に本学は第三者評価を受け、適合であると評価いただいた。評価をいただくにあたっては過去の実績や今後の取組を高く評価されており、このような状況の中で本学が現在運営されているということである。
- ・ 本日は地域との連携の関係でとらひめ認定こども園の園長先生が本学で講義を

していただくことになっている。地域の方が本学に来ていただき、学生の前で講義をしていただく、また逆に本学の先生が外に出て講義をする活動もある。
・本日は大学の施設をご覧いただき、日ごろ本学が取り組んでいることについてご意見などをいただければと思っている。

4 滋賀文教短期大学見学

滋賀文教短期大学から、「ぶんぶん広場の取組事例紹介」のビデオ映像を視聴した後、施設や授業の見学を行った。

5 議事

「就学前教育にかかわる人材育成の取組について」

滋賀文教短期大学から、配布資料に基づき、滋賀文教短期大学の概要及び現状について説明を行った後、事務局より、就学前教育に関わる人材確保の現状について説明を行い、続いて意見交換を行った。

構成員から出された意見や感想は、次のとおり。

〈意見：教育委員〉

新聞を今朝見た中で、この春小学校を卒業した生徒の「将来就きたい職業のランキング」があり、女の子の場合、1位は教員、2位は保育士であった。どのように調査をされたかはわからないが、小学校卒業時点で保育士になりたいと思っていた子が、夢を抱いて大学を選び、保育士を目指していく中で、どこで夢を諦める形になっていくのか、つまり保育士不足になっていくのかと疑問に思うところである。事務局から説明があった処遇や勤務の環境の話が、学生が教育実習に行く中で、学生に情報が入ってきたのではといったことや、他にも様々な理由があるのではと推測するところはあるが、平成 28 年度に長浜市は処遇の改善が図られたなかで、米原市や彦根市と比較して、また長浜市の他の一般的な公務員の処遇と比較してどの程度なのか聞かせていただきたい。

また、できるかどうかはわからないが、臨時講師として働いていただいている方や、また少しブランクがあり、今から保育士資格がありながらも採用試験を受けるのはどうかと思っておられる方が、「一億総活躍社会の現在、自分の資格を生かしたい」と思われた時に、「一般教養や色々な試験を数多く受けるのはどうか」と不安に思っておられるのではと思う。また「臨時職員として忙しい中働きながら、採用試験の勉強ができるかどうか心配だ」と思っておられる方もおられると思う。学生も早くから色々試験の情報を収集しているが、「具体的に試験対策としてどのようにしていけばいいか」と思っているのではないかと。

そこで、滋賀の教師塾といった感じで、土曜日や日曜日など文教短期大学をお借りして勉強のノウハウや一般教養、ピアノの実技など試験対策をフォローして

いただく取組などあればいいと思う。その中で小学生卒業の時に思った夢を実現できるようにあればいいと思う。

〈事務局〉

処遇改善の面については、幼児教育職については、長浜市の一般行政職と対比しても高い初任給を支給している。例えば4年生大学卒業の場合、一般行政職では184,800円であるものが、幼児教育職については187,100円となっている。また、臨時職員についても、他市と大差ない同水準、もしくはそれ以上の賃金設定を行っている。

ブランクがある先生方への対策については、正規採用職員については、2年間保育としての経験がある方を対象とする経験者採用枠として、一般の入試採用枠とは異なり面接と論作文、その後実技試験や面接試験というようにしており、いわゆる一般教養的な試験については軽減を図っている。

今までの一般教養試験は筆記試験を中心にしていたが、今年度からSPI試験を導入し、適正試験的な要素を含んだ試験に変え、試験勉強に対する負担を軽減するように図っている。

〈意見：教育委員〉

臨時職員として2年以上働いている人は、経験者採用枠として試験を受けることができるという現状を踏まえ、今の臨時職員の割合は結構高くなっていると思われるが、臨時職員の方は、正規職員になろうという強い思いを持っての臨時職員なのか、別の何か壁になっての正規職員ではなく臨時職員として働いておられるのか、色々この件についても検討いただきたい。

〈意見：教育委員〉

私達は幼稚園や小学校、中学校などの授業は何回もみせてもらっているが、大学の授業を見せてもらうことはここ数年なく、本日見学した中で、マンツーマンに近い形で実技の指導などをしておられることに非常に感心した。

長浜市の幼稚園、保育園を見てみると以前と比べれば色々な手を打っているところである。処遇改善も図っており、専門職の配置についても今までと違った形でこの3年ほどの間で充実してきている。園長、副園長との連携も小中学校並みに行っていこうと取組を進めている。

にもかかわらず保育士が集まらない、就職してくださる方が少ない、こちらの期待しているほど集まっただけないという現状に苦慮している。その中の取組の一つとして来年度より奨学金返還支援の制度も導入していこうと考えている。

しかし、全国的な問題として、なりたい職業のランキングで保育士が上位で、子供の時に憧れをもって、実際に自分が就職するときに免許は持っているにもかかわらず、実際に保育士の道に進もうとする方が、こちらが期待している以上に少

ない現状がある。これは大学の先生はどのように原因を捉えておられるのかお伺いしたい。

事務局に対しては、4月1日現在で総欠員数が45名の状況で、欠員が埋まれば市で設けている全ての施設を使うことができるのだが、欠員が生じているが故に使えないという状況であるが、4月1日現在での待機児童数は何人か。

保育士が集まらない理由として、給料等処遇改善は大きなネックになっていると思う。思い切った待遇改善をしない限り長浜市に保育士さんは集まってこないと思う。長浜市としても処遇改善の取組を現在行っているが、もっともっと思い切った改善が必要だと思うがどうか。

〈滋賀文教短期大学〉

確かに学生は、入学当初は保育士を目指したいという意気込みをもってきている。授業は辛いこともあり、加えて命を預かる仕事では実習に必ず行かないといけない。実習に行く中で実習先の指導を担当していただいた先生の対応等にも影響される部分が多く、対応してくれた先生がすばらしく、「このような先生になりたい」と思って帰って来る学生もいれば、「私はこの道では無理なのではないか」と考えて帰って来る学生もいる。

保育士免許を取るには保育所の実習と福祉施設での実習にも行く必要がある。福祉施設へ実習に行くと、福祉関係の仕事につきたい、親のいない子達の施設で働きたいという理由から進路を変更する学生もでてくる。私としては確かに福祉施設も大事だが、まずは子どもの発達をしっかりと保育士として勤める中で勉強した後に、福祉施設などの仕事を考えてもいいのではと話しているが、学生が色々なことをしっかりと考えた中で、学生が自分の進路として福祉施設があっていると考える場合もある。

実習ということは学生の中で大きな進路に響くことであると考えている。私も保育士だったので、ぜひとも保育士の魅力、幼稚園教諭のやり甲斐は常々授業の中で伝えている。本日もとらひめ認定こども園の園長に授業に来ていただいているが、授業の中で保育士の仕事の良さや求められる保育士について、保育士のやりがいについて講演していただいております、常々授業の中で話をさせていただいている。

本来は、学生は公務員として長浜市で働きたいとは思っている。しかし学生の中では、採用試験は難しいという考えを持っている。「大丈夫だから受けるだけ受けなさい」とは伝えるが、「5教科の試験は無理」といって受けない学生が多い。頭が良くて、公務員試験も合格するだろうという子は確かに合格するが、その生徒が果たして保育士の適性があるかどうかは疑問がある。頭が良いから保育士に向いているということは少し違うかなと思っており、私達からいえば、学校で見ている推薦できる学生がいれば、長浜市のほうに推薦できるような推薦枠のような制度があればいいと思っている。学生は一次試験に合格するということがネックになっていて、敬遠する傾向がある。私立は一般教養試験がないので、私立の園の採用試験を受験

するほうが多い。

〈滋賀文教短期大学〉

先ほど委員がおっしゃった、新聞で小学校卒業時の子ども達になりたい仕事の2位が保育士であると言う点、とても喜ばしいことではあるが、それと同じように昨日の新聞では「保育士の心のケア」についてという内容が大きな見出しで書かれていた。

保育士がおかれている課題の中で、心のケアについては大きな問題となっている。今、学生は3週間の実習を終えて帰ってきたばかりだが、実習訪問に行かせて、まず感じたのは実技的な問題よりむしろ心の負担が大きいのだと感じた。学生と面談すると涙を流してくるが、子どもの目の前に行くとき笑顔で接するように学生なりに頑張っている。このことは保育士になってからも同じで、保育士の心のケアというのは大きな問題であり、仕事が続かなかつたりする要因の一つである。保育士が足りない中で、賃金が安いとか環境が大変だとかという問題はあるが、まずは充実できる保育士の心の問題ということは大きな要素かもしれない。このあたりが学生に私達がサポートしていかなければいけない課題かと考えている。

〈事務局〉

ご質問の待機児童については、4月1日現在で公表されている長浜市の待機児童は35名となっている。

ご指摘のとおり欠員のままで現状スタートしているが、保育士がそろうことによって、空き教室なども活用できるのでもう少しゆとりを持って、1クラスの数も調整しながら運営することも可能となる。

〈意見：教育委員〉

先ほど先生がおっしゃられた中で一つ気になったのが、教育実習に行き、「この道で働くことは難しい」と思って帰ってくる学生がいるとのことである。指導の先生からレベルの高い話をされたのだと思うのだが、そのあたりがうまく学生に伝わらなかったということなのか。

〈滋賀文教短期大学〉

実習指導というのは難しく、受けていただいている先生も一生懸命指導いただいているが、それが学生にとっては負担に感じてしまうケースもある。実習担当される先生の問題は難しい問題だと感じている。担当する先生によって指導方法はまちまちであり、「自分自身の欠点を指導の先生にはっきりといわれたので、実習に行く自信が無い」と実習指導途中で泣きながら学校に走ってくる学生もいれば、反対に素晴らしい指導を受けたので、このような先生になりたい、頑張って素晴らしい先生になりたいと感じてくる学生もいる。

実習というのは、初めて現場に出るので、学生にとっては大きな負担、心配事が多い内容である。向かった先で学生が指導を受けた印象が大きい影響を与える。実習していただく先生には迷惑な話で、忙しい中一生懸命指導いただいているわけだが、うまく対応できない学生もいる。

〈意見：教育委員〉

教育実習に行って、そのような思いを持っておられる学生がいるということははじめて聞いた。私も教師出身で6週間の教育実習を受けた。その中で、当時そのような学生がいたとも思えないし、教師になってからも何人かの実習生を受け入れたが、そのような学生に接した経験がなかった。

教育実習に行った先の指導の先生の要求が高すぎたのかもしれないが、現場の厳しさについていくのをためらってしまう学生がいて、自信がなくなってしまうということ、先ほど話があった保育士の心のケアの問題など、様々な問題を教育実習に行く学生が抱えているということは、根本的なところを考え直さないと、なかなか難しい問題であると思う。処遇改善したところで、この問題の解決には至らないと思う。教育実習の問題は、保育士不足の問題をどこで、何を、どう直していけばよいか、大きな課題の一つとして考えられる問題提起であった。

〈滋賀文教短期大学〉

私達の時代では考えられないが、今の学生は打たれ弱い感はある。昔と違い今の学生は実習に行って壁にぶつかり気力を失ってしまう。ただ全て打たれ弱いというわけではなく、大半の学生は元気に実習に向かっている。

〈意見：教育委員〉

私も大学の授業を見せてもらうのは初めてでわくわくした気持ちで来させていただいた。学生たちのアンケートにあるように、少人数でアットホームに伸び伸びと学んでいる様子を学ばせていただいた。

私も長く中学校に勤めており、中学2年生になるとキャリア教育というカリキュラムがあり、2週間ほど職場を体験する。幼稚園や保育園など様々な職場があるが、生徒たちが選択して体験する。女子生徒には保育園、幼稚園は人気が高い。時には男子生徒も参加するが、2週間の体験を通して帰ってきた生徒たちからは、大変良かったという声や、感動して幼稚園や保育園の子ども達との別れを惜しむ様子が感想の中から聞き取れた。

そういった中学生の現状を見ていると、将来現実になるかは別として保育士になりたい、将来関わりを持ちたいという思いから、数多くの学生が保育士になりたいと思っているのかと思えば、現状は保育士が不足しているということを知り、考えさせられた。

本日の話を聞いた中で感じたこととして、現在の長浜出身の滋賀文教短大の在籍

学生の数が思ったより少ないということ、その現状は大学側としてどのように捉えられておられるか。

もう一点、先ほど別の委員からの話もあったが、求められる教師像、指導者像を3つあげるとすれば、「豊かな人間性」であったり、「専門性」であったり、「保育に対する情熱」であったり、このあたりがあがって来ると考えられる。教師や保育士になろうと思う人は、専門性などは大学で確実に技能を身につけて卒業していくわけだが、「豊かな人間性を育む」ということに視点をおいてみると、現状の学生は、実習に行きつづいてきつことを言われて気力を失ってしまったりする実情や、個人差はあるかも知れないが、最近の大学生は弱いということを報道などでもよく指摘されている。

大学の先生は長らく勤められている中で、今の学生はこのような忍耐力の弱い面が増えていると思っておられるのか、それに加えて今現在教育の現場で抱えている様々な課題、これが学生達に大きなプレッシャーになっているのかどうかお聞かせいただきたい。

〈滋賀文教短期大学〉

まず、長浜出身の学生の割合については、国文学科と子ども学科を合わせた人数になるとパーセントは落ちる。国文学科については、司書資格が取れるということから県外の学生の志望が多くなっている。逆に地元学生が少ないことは危惧している。地元学生にとって、文学ということ、司書資格を取るというニーズがないということが現れている。

子ども学科については、全体の2割から3割が長浜出身の学生だが、本学が位置するところは長浜の南という位置関係もあり、米原や彦根からも学生が入学してくるので、湖北地域という括りならば、かなりの高い割合である。しかしそのなかでも長浜市出身の学生が少ないということについては、入試やオープンキャンパスなどで高校にPRして本学に来てもらうように危機感を持って努力をしていかなければならないと思っている。

先ほどおっしゃった、中学2年生のキャリア教育についての話であるが、本学では入学試験の際に全ての試験で面接を採用している。一般入試でも面接を行い、2次面接は学長面接を行っている。その中で直接入学生から子ども学科の志望動機を聞くと、ほとんどの学生が職場体験の話をし、それがきっかけで保育士になりたくて目指したと回答してくる。更に聞いてみたら、職場体験をし、憧れの先生をみて、保育士を目指したと答えた学生もいた。

〈滋賀文教短期大学〉

私は国文学科を担当しており、元は小学校の教員で、今は小学校課程の学生を指導している。小学校課程の学生の中には、社会人から、なんとしてでも教員になりたいと入って来る学生が半数以上いる。社会人学生と高校卒業して入学してきた現

役学生と一緒に小学校課程を勉強している。

社会人から入ってきた学生は、教職員という職に対するモチベーション、なんとしてでも教職員になりたいという思い、学習の姿勢、学ぶ姿勢が非常に高い。教育実習に行っても確かに大変なことはあるが、それを越えてなんとしてでも教職員になりたいという決意を持っている。現役で入学してきた学生とはこの部分が違うと思う。従って、この社会人学生の姿勢、熱意を高校卒業して入学してきた現役学生とお互いに学びあうという環境の中で共有する形が出来上がってくる。

要するに、自分にはこの職しかない、教職員になることを「なんとしてでもやり遂げる」、「なりたいのだ」という社会人学生の思いを授業の中にもってくる、そして現役の学生と切磋琢磨して、現役の学生も刺激を受け、熱意を持ってくるものもいるが、教育実習の中で辛さから方向転換する学生もいるのも現状かなと感じている。

従ってその熱意等をどのようにして大学として育てていくかは課題である。一つは切磋琢磨しながらお互いに学んでいくという場を設定しながら進めていくという方法であり、もう一つは、私個人の考えかもしれないが、インターンシップ制度の中で夏休みなどに、保育園、幼稚園など現場の中に学生が学ぶ場を取り入れていただいて、学生とともに育てていくというスタンスでのインターンシップを現場に取り入れていただけないかと考える。

夏休みならば現場も対応できるので、夏休み中に取り入れて現場で、「こういう楽しさがあるのか」「現場でこういうことが学べるのか、高めていけるのか」ということを学生が学べると学生の意識向上につながり、長浜の人材確保にもつながるのではないかと。「ぶんぶん広場」は本学で行っているが、インターンシップによる実体験をしながら学ぶ取組や、滋賀教師塾のような取組や体験を現場に取り入れてほしいと思う。

〈意見：教育委員〉

本日は良い授業を聞かせていただいた。特に1年生の事業でとらひめ認定こども園の先生の講義を熱心に聴いている姿に感心した。

短期大学なので就職までは2年ということは、実際の学ぶのは1年くらいしかない。校舎も良いし、教育環境も良いので理想の教育はできていると思う。問題はおっしゃられたように、憧れて入ってきたけども先生になろうとしないことか。

大学の教育審議会が去年の3月に従来型の教育は否定されて、大学入試のセンター試験で学ぶ力とか判断力や面接に力を入れるようにという答申が出されており、そちらの方向に進むのではないかとわれているが、個人的には失敗するのではないかと考えている。ゆとり教育の二の舞になるのではないかと考えている。暗記型の従来型の教育も悪くはないのではないかと考えている。

なぜこれを言うかということ、従来型の正規職員の採用試験で一般教養の5科目が大変だという話があったが、一年間しっかりと従来型の暗記型の教育で過去問をし

っかりすれば誰でも合格できると思う。幸い現役の学生は、高校卒業して入学したばかりなので、そのようなトレーニングもしやすいのではと思う。

時代に逆行しているかもしれないが、試験対策の側面からみると従来型の暗記型の教育について、ここは人文系の学科なのでそれが特に必要かと思う。数学でも私たちのころは「受験は要領」といわれていたが、解法を完璧に暗記してしまえばすらすら解ける。物理もそうだった。物理の本を暗記すれば、すらすらわかるようになった。従来型の暗記する力も必要なのではと思っている。

〈意見：教育委員〉

実習に行った後に、保育士を目指さない学生が出てくるということで、どれくらい実習に行かれているのか資料を見てみると、1年生のときに2月と3月、2年生のときに6月と9月となっている。1ヶ月丸々行かれているのかと思っていた。

私は助産師で学生の時の実習は「現場で体験して学ぶ」ということでかなり多く、最初は患者さんとコミュニケーションをとりましょうという段階から、お産を10例とって卒業するというところまで進めていく。

今の実習期間で大学を卒業して一人前の先生として出たときに学生さんも不安ではないかなと気になった。実習期間を増やすということは短大なので期間が短いということもあって難しいとは思うがどうかと思った。

「ぶんぶん広場」について、実際に保育園に実習に行けない分、「ぶんぶん広場」に集まった親子さんに対して保育実習のようなことをしておられるが、見せていただき学生さんも生き生きと本当の先生のように接しておられ、「ぶんぶん広場」開催までに勉強して、勉強したことを実践しておられるのだと感じた。

今後の課題として育児相談の対応がまだできていないとのことだが、先生として現場に行かれた時には、現場では新卒の先生だからとかはなく、保護者からは先生として子どものことはどんどんと相談してこられると思う。その時に抱えきれない親と対応で抱えきれない先生が出てくると思うが、「ぶんぶん広場」で傍にいてくれる先生方が親との対応で相談に対応しておられる姿であったり、相談に答えられる内容であったりを学生に対し勉強していただければと思った。

〈滋賀文教短期大学〉

実習期間は定められているが、実習の時期については、今後事務局担当課と検討していきたい。

育児相談について、学生が相談を今は受けることができないので、教員が対応している。教員の姿を見ながら聞きながら学生も勉強しており、また授業の中でも「家族支援論」などで、事例を出しながら学生同士でもグループを組んで、対応方法などについても勉強を行っている。

6 閉 会

教育長あいさつ

(要旨)

- ・教育委員会、幼稚園、保育園に対するご意見、大学側に対するご意見もいただきました。
- ・大学は基本的には就職を目的とする場ではないので、私は学生に対し、保育士としての基礎基本、理論、保育理論、教育理論を大学でしっかりと勉強していただきたいと思う。
- ・私の時もそうであったが、実際のときに間に合うことは大学で勉強していなかった。そういうものだということをお話していただく必要があると思う。しかし時代が変わっているのだからわからないが、保育に関する理論的な学習は2年間だけだが、そのうちの「これとこれは必ずしておかなければならない」ということを重視したカリキュラムが必要である。
- ・これは保育士になってからもう一度専門的なところに戻ってというのは、日ごろの任務がなかなか許さないと思う。学生時代は実践よりもまず理論で、この専門的な力が2年間で養えるかどうかだと思う。
- ・実習については、あまり期待されなくてもいいと思う。現場で仕事に入ってから泣きながら行く。教員になって1年目になってトイレに入って泣いている職員は何人もいる。教師という仕事は軽々しい仕事ではない。
- ・「実習のときに良い先生に会ってやる気が起こった」ということもいいことだと思う。しかし、「教員になってみて実際は違った」ということもありうると思う。逆に厳しい先生に対応してもらったが、それがきっかけで教員、保育士になったときにバネになっているということもあると思う。
- ・よって、「厳しかったからやめる」ではなく、実習はそういう保育士の卵のような形で一度仕事をしてみるということなので、あまり大学の中で重視する必要がないのではと思う。
- ・私も教育実習に1週間行ったが、結果は散々だった。生徒は笑っていた。だがそれが教員になってどうだったかというと、一から勉強し直したのでほとんど関係ない。
- ・理論とピアノや発声、話し方といった基礎的な技能はしっかりと身につけていただく必要があるのではと思う。
- ・滋賀の教師塾といった話があったが、これはとても今の就学前教育の教員に余裕はないのでできない。全力投入しているので、新たに学生を現場で引き受けて指導するということは不可能に近い。
- ・大学で、付属の保育園なり幼稚園、認定こども園を持ってもらうことが実は非常に有効なのではと思う。そうすると学生は理論と実践が両方ともできる。実践を長浜市の幼稚園なり、保育園でとなると現状は難しい。このことは今後色々とお話していきたい。

- ・ 本日は希望を持ってこの大学にやってきた学生が力を蓄えて教育の現場に来ていただき、そしてくじけずに保育士としての道を歩んでいただくためにいろいろな意見を出していただいた。教育委員会としても色々と考えていきたいと思う。
- ・ 滋賀文教短期大学がここにあつて、このような機会を設けていただいて忌憚のない意見交換ができたことは非常にうれしく思う。これからも市の教育委員会も長浜市長も就学前教育は重要だと認識を持っているので、一緒になって尽力していきたい。

7 その他

〈事務局〉

本日の議事録については、内容を委員の皆さまに確認いただいたのち、ホームページにて公開する。平成29年度第2回目の総合教育会議については、秋ごろに開催させていただく。

16時15分 閉会